●夏の読書感想文から●

２年　「カブトムシのなつ」

　わたしがえらんだ本は「**カブトムシのなつ**」です。なぜ私がこの本をえらんだかというと、カブトムシがでてくるからです。わたしはクワガタを見たことはありますけど、カブトムシを見たことがありませんでした。でもなんでかしっているんです。だからきょうみをもちました。

　わたしが一ばん心にのこった場めんは、カブトムシがおもいにもつをはこんでいる場面です。なぜかというと、そこを,読んだときすごいなぁという気もちになったからです。
　この場面の前までは、おとうと と おにいちゃんは、カブトムシがつかまえられなかったのに、ライトにさそわれてでてきたり、ライトにぶつかっておちてきたりして、２ひきもてに入りました。（きょうだいはこの２ひきに）ジャンボとキングとなをつけました。ぼくは、きょうだいにおとうとが「たける」でおにいちゃんが「くさぶ」とつけました。

　ジャンボとキングはおもいにもつを、はこびました。つかまえられてもちゃんと２ひきは、はこびました。紐をつけた車におもちゃを、いっぱいのせてはこばせました。それを見てぼくは、すごいなあと思いました。だってあんなにおもいにもつをはこんでいるからです。

　あるあさおきたらなんとしんじゃっていました。ふたりは、しんだジャンボを、慰めました。むりにいえの中でかうといけないと思いました。カブトムシをかうと,あばれだしていえの中でガラスにぶつかりジャンボのようにしんじゃうかもしれないからです。

くさぶは、キングをクヌギの木にかえしてあげました。そうするとキングとジャンボにに てるなかまたちを、見ました。その木からおちてきたカブトムシが、（ジャンボの）おはかにのりました。それを木にのぼらせました。いっぱいおうえんをしました。それを見て、ぼくは、すごいなあと思いました。だってせいいっぱいおうえんしてるし、ちがうなかまにもおうえんしてるからです。

もしぼくがカブトムシだったら、なかまのところにかえりたいとおもいます。なぜかというと、二人では人げんがこわいからです。ぼくが人げんにさらわれたらガラスをぶっこわします。カブトムシはもつカはつよいけど、こわすカはよわいです。
　この本を読んで、カブトムシにさらにきょうみをもちました。カブトムシをいっぱい見てみたいです。あしたから４はくおばあちゃんのいるきょうとにとまります。たくさんのみどりの中で、カブトムシを見たいです。